

2018年5月6日 茅ヶ崎教会での分かち合い 1ヨハネの手紙4：7～10

テーマ「神は愛」

神は愛であるということを私たちは、知っているし、信じています。(1ヨハネ4：16) フランシスコ会の「平和を祈ろう」という歌集に『愛する者よ、互いに愛しましょう。愛は神よりのもの。愛する者は神から生まれ、神を知る。愛さない者は神を知らない。神は愛だから。愛するよりも、先に愛された。罪を贖い愛された。それも尊い独り子のいのちと引き換えに』と今日のヨハネの手紙が歌われています。典礼聖歌などの歌の歌詞を覚えて一人で歌うととてもよい祈り、黙想になります。例えば「キリストのように考え」「あなたの息を送ってください」など。

ヨハネの手紙は7節から10節と短い箇所ですが、とても味わい深いものがあります。

愛は神から出る (v7) 私は神からの賜り物です。神は、今も私を創造しておられ、私に対する神の愛には限界がありません。これは生まれた時からいただいている、私のいろいろな才能、能力また洗礼の恵み、ご聖体そして私と神の特別なかかわりの中でいただいた、沢山の恵みなど、数えきれない多くの賜物によってわかります。⇒愛する者は神から生まれ、神を知っている

だから、使徒ヨハネの手紙は、「愛する者たち、互いに愛し合いましょう。」と、イエスの弟子である私たちに語ります。

神の愛は独り子を世に遣わされて示され、独り子によって私たちが生きようになるため (v9) で ⇒神の愛が私たちの内に示されました。(啓示)

神はご自分を私に与えてくださいます。神が私に与えてくださるのは賜り物だけではなく、文字通りご自身を私に与えておられます。神であるみ言によってすべてのものが造られているだけでなく、み言葉は肉体となって私たちの内に住まわれています。神がその御体と御血を私のいのちになる食べ物と飲み物として与えておられることは、真の意味で、ご自身を私に与えてくださっていることです。またご自身の霊も私に注いでくださっているので、私は神に向かって「アッバ、父よ」と言えるのです。神はわたしの中に住まれ、わたしを神の神殿とされるほど、わたしを愛しておられます。神の似姿として、神にかたどって造られたのです。

神は私たちのために労苦して働いておられます。私たちと日常生活を共にするほど、神は私たちを愛しておられます。神は私たちと労苦を共にして働いておられ、ご自分のいのちを絶えず分かち合っておられます。主は私たちに復活の新しい命をもたらすために労苦し、

そのために十字架につけられて死んでくださったのです。

神の愛は「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して、私たちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」(10) 神が独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、私たちが生きようになるためです。

ところで「神は愛」という時、わたしたちは「神は愛」と愛を強調する習慣に陥っていないでしょうか？新約聖書において正しくは、強調点は「神」にあって、「神は愛」なのです、(とプロテスタントの神学者ボンハフファーが言っています。)強調点は「神」にあります。

でもわたしたちは「愛」に強調点をおいて「神は愛」を理解しているのではないのでしょうか？そして、各自が知っている「愛」を神にあてはめて考えていませんか？

マタイ福音書の20章のブドウ園で働いた人が正当な賃金を要求したように・・・。

愛は人間の心構えや確信や行いではなく、神ご自身が愛です。神を知る人だけが、愛が何かを知っています。神の啓示なしに、神が示してくださなければ私たちは神を知りません。神は独り子イエス・キリストを世に遣わされて、私たちが生きることを望まれました。ここに神の愛が私たちの内に示されたのです。

愛の根源は神にあって、私たちに愛の根源があるのではないのです。愛は人間の態度ではなく、神の心構え、態度です。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して、私たちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」(v 10)

イエス・キリストが私たちに示された愛によってのみ、私たちは愛が何であるかを知ることができます。愛は神の啓示としてのイエス・キリストと切り離せません。

神がなさることが愛なのです。ヨハネによる福音書でイエスは「父が私を愛されたように、わたしもあなた方を愛してきた。私の愛にとどまりなさい。」と言われます。イエスですら、父がイエスを愛されたように、そのようにイエスも私たちを愛してきたと言われ、そのイエスの愛にとどまりなさいと言われます。

私たちは神から愛されることによって、神の愛を知ったのです。神が私たちを愛して、私たちの罪の償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。わたしが愛と考えていることと、神の愛を聖書を通して、もう一度見直してみませんか？